

## 名古屋市下水道供用開始100周年下水道歴史写真展オープニングセレモニーに参加しました。



名古屋市下水道100周年のセレモニーに近藤議員と参加しました。

名古屋の下水道は供用開始100年になります。

写真展には100年の歴史や、現在、そして未来について、上下水道局が所有する写真を中心に展示してありました。市民の皆様は上下水道事業についてしていただき、親しみを持っていただくために「水の環コンサート」、「下水道科学館の展示物のリニューアル」、「絵画コンクール」、など様々なイベントがありました。

写真①は、今から約100年前、大正2年の上下水道工事の様子です。名古屋の下水道管の総延長は、7,700kmで名古屋から沖縄間の6倍もあります。ドバイまで行ける長さなのです。

写真②は、昭和5年に完成した名古屋市最初の下水処理場、堀留処理場の建設風景です。

下水に空気を吹き込んで、微生物の働きで下水をきれいにする方法がこの堀留処理場で行われています。「活性汚泥法」といい、日本で最初にこの方法を採用したのは名古屋だそうです。

写真③は、天白汚泥処理場です。下水処理の過程で発生する汚泥を処理するため、天白川の河口・現在の南区元柴田西町に汚泥処理場を建設しました。この汚泥処理場では、砂床の上に汚泥を敷き詰め、天日により乾燥させていました。

写真④は、天白汚泥処理場の作業風景です。乾燥した汚泥の収集作業の様子です。熊手や細耙で汚泥をかき集め、竹かごに入れて搬出していました。なお、写真でわかるとおり汚泥が敷き詰められているため、処理場周辺の方々に悪臭でご迷惑をおかけすることがあったようです。

写真⑤は、活性汚泥(肥料)を運ぶトラックです。袋詰めされた肥料を運ぶトラックの様子です。建物の中には名古屋市の市章「八」のマークの袋も見えますね。なお、汚泥から肥料を製造するこの汚泥処理場は、アメリカの科学雑誌が取材にくるほど世界に誇れる施設でした。



## 名古屋陽子線治療センター内覧会

名古屋市では、一年間に5千人を超える市民ががんで亡くなっています。今後も高齢化により、ますますがん患者は増加することが推測されています。こうした中、「陽子線治療」は正常組織への影響が低減出来、体に優しいがん治療として注目されています。

「陽子線治療」とは？

X線と異なり、ある深さで放射線量が最大になりそれ以上先に到達しない特性を持っています。この特性はブラッグピークと呼ばれています。ブラッグピークを腫瘍に合わせることで、腫瘍に放射線を強くあて、正常組織にあたる放射線を減らせるので、X線で治療しづらいがんにも高い治療効果を期待できるそうです。

名古屋陽子線治療センターは名古屋市北区の「クオリティライフ21城北」にあり、H24年11月頃から外来診察開始予定です。



加速器(シンクロトロン)

陽水(水素原子核)を光速の約60%まで加速します。

他にも、360度、どの方向からでも陽子線を照射出来る「ガントリ照射室」や、横方向から陽子線を照射する「固定照射室」などがあり、視察させていただきました。

## 春日野小学校グラウンド



赤い枠の中春日野小学校のグラウンドの下は南区全土に配水されている配水場です。どれくらいの重量物が乗っても耐えられるかとの消防団からの質問を受け、調べました。

上下水道局によりますと2tトラックまでは可能だそうです。

しかし、他にも条件があります。

現在、看板を立てるため教育委員会と上下水道局が調整に入っています。



## 大磯コミセンの駐車場整備

2月15日(水)～2月23日(水)まで駐車場工事予定です。その後側溝工事になります。

赤枠がコミセン駐車場になります。

矢印の方向からも入れることになります。

青線は現在のL型側溝をバリアフリー型側溝に改良します。(コミセンの入口含む)

